

コアラの食するユーカリ の発芽と成長

高山 信明

ユーカリ属は、熱帯アジアからオーストラリアにかけて約500種分布しているが、オーストラリアの愛すべき珍獣コアラは、そのうちのわずか数種のユーカリしか食べないことがわかっている。今回シドニー市よりコアラの食する10種のユーカリの種子を受領したので、その発芽と成長について観察した結果を報告する。

材料および方法

(1)樹種 材料として用いたユーカリは表に示した通りである。

(2)播種方法 1982年7月17日に、真砂土単用の用土を8号素焼浅鉢に入れ、その上に種子を散布播種し、2～3mm程度の覆土を行った。なお播種は、各種2鉢ずつ行った。

(3)鉢上げ、移植 '82年9月13日に3～5cm程度の苗を、6cmポリポットに鉢上げした。その後はポット(鉢)の底から根の出たものについて順次鉢替えを行い、'83年10月2日までは、すべて冬期加温を行うフェイロンハウス内に置いた。耐寒性を調べるため10月2日に生長の良い数種(表)についてのみ、戸外に露地植えを行った。

(4)調査 発芽の調査は、種子が微細なため発芽状態の観察のみ行った。生育調査は、①地際から頂芽までの樹高 ②側枝から側枝までの枝張り ③地際部における茎の根元直径 ④側枝数の4項目について、'83年5月10日と'83年12月18日に調査した。耐寒性の調査は、被害の程度を84年2月20日に中間的調査として行った。

結果と考察

(1)発芽 鉢上げ日までの発芽状態は、表に示すように9種は発芽し、1種は発芽しなかった。*E. rostrata*は特に良好であったが、*E. rubida*、*E. frocktoniana*の発芽は劣っていた。発芽は、播種後1週間以内のものが最も多く、その後は少しずつ起り、1年以上経過してもわずかであるが発芽し続けた。*E. populnea*もわずかであるが'83年度に発芽がみられた。

(2)生長 *E. globulus*は、樹高、側枝数とも9種中最も良く、枝張りも良好で、生長の速い樹木と思われる。また外観的にも枝、葉が、銀白色を帯び美しい。*E. rostrata*は、樹高は高い数値を示しているが、枝張り、側枝数ともやや劣っていた。*E. viminalis*、*E. cinerea*は、樹高、枝張り、側枝数とも高い値を示しており、生育は良好であった。*E. cinerea*は、葉が丸く銀白色を帯びた美しい葉である。*E. rubida*、*E. frocktoniana*は、他種に比べ数値が劣り、特に*E. frocktoniana*は著しく生長が悪かった。

(3)耐寒性 冬期戸外に露地植えしたものは、加温ハウス内のものより程度の差はあるが、葉が紅葉した。茎、葉ともほとんど被害が観察されなかったものに、*E. melliodora*、*E. cinerea*があげられる。*E. globulus*、*E. rostrata*、*E. viminalis*、*E. ovata*は、一部の葉(主に枝の先端部)が萎凋したり、枯死していた。*E. amplifolia*は、ほとんどの葉に被害が観察された。しかし、いずれの種類も主幹には被害が観察されず、株自体は健全であった。

以上の結果から、*E. globulus*、*E. rostrata*、*E. viminalis*、*E. cinerea*の4種は、短期間にかなりの大きさに生長し、冬期の寒害もそれほど大きくないように思われる。また*E. amplifolia*については、耐寒性がやや弱いようであるが、この点については、ひき続き調査する必要がある。今後の問題点としては、コアラ飼育のために常時ユーカリを供給するための基礎的資料として、枝を切った後の萌芽力、実生以外の繁殖方法について調査する必要がある。



E. ovata

ユーカリの発育，生育一覽表

種 類	発芽 状況	鉢上げ数		樹 高		枝 張 り		根 元 直 径		側 枝 数		冬期被害状況
		戸外	ハウス 内	'83.5.10	'83.12.18	'83.5.10	'83.12.18	'83.5.10	'83.12.18	'83.5.10	'83.12.18	
<i>Eucalyptus globulus</i>	+	2	4	63.6 ^{cm}	133.8 ^{cm}	—	46.0 ^{cm}	0.60 ^{cm}	0.97 ^{cm}	13.0 ^本	34.0 ^本	B
<i>E. melliodora</i>	+	6	8	33.1	65.5	—	31.9	0.33	0.79	3.5	7.9	A
<i>E. rostrata</i>	++	9	48	58.6	116.2	—	22.8	0.49	1.09	3.4	5.6	B
<i>E. rubida</i>	+	—	2	16.0	27.0	—	42.5	0.15	0.53	1.0	9.5	
<i>E. viminalis</i>	+	9	16	53.3	94.7	—	52.8	0.50	1.02	11.0	24.4	B
<i>E. cinerea</i>	+	4	8	44.2	89.3	—	69.0	0.48	0.92	4.4	13.4	A
<i>E. amplifolia</i>	+	7	16	29.1	79.8	—	28.3	0.45	1.31	1.2	4.2	C
<i>E. frocktoniana</i>	+	—	3	11.3	33.3	—	6.7	0.10	0.36	1.3	1.3	
<i>E. populnea</i>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
<i>E. ovata</i>	+	1	4	32.0	47.5	—	39.3	0.31	0.74	3.9	10.0	B

- 凡例 1. 発芽状況
 — 発芽なし
 + 少数発芽
 ++ 発芽良
2. 冬期被害状況
 A 被害なし
 B 一部の葉に被害
 C ほとんどの葉に被害
3. 樹高，枝張り，根元直径，側枝数の数値は平均値
 '83.5.10の数値は，戸外，ハウス内合わせたもの
 '83.12.18の数値はハウス内のみのもの

変化アサガオの栽培状況

竹 下 宏

本園では，昭和57年3月，国立遺伝学研究所から変化アサガオの分譲を受け，同年夏には，獅子咲牡丹，采咲牡丹をはじめ，木立ち，桔梗咲など，種々の変化アサガオの展示を行った。加えて昭和58年度には，三重県伊賀上野市在住の小川信太郎氏から，台咲アサガオや帯化アサガオ，枝垂アサガオなどの貴重な種子の分譲を受け，さらに充実した変化アサガオの展示を行うことができた。これを機に，今後も変化アサ

ガオの保存と普及に努めたい。なお，変化アサガオの種子を分譲いただいた国立遺伝学研究所の木村資生博士ならびに伊賀上野市の小川信太郎氏にお礼申しあげる。

以下，昭和57年度，58年度における変化アサガオの栽培状況を示す。木立や桔梗咲などの単純な系統のものは省略した。形質の記入にあたっては下記の文献を参考にした。

(参考文献)

原色朝顔図鑑 竹中要著，原色朝顔検索図鑑
 米田芳秋・竹中要共著，写真集 昭和の変化咲き朝顔 小川信太郎著，原色朝顔つくり方と鑑賞 渡辺好孝著

昭和57年 播種の変化アサガオ(木村資生博士から分譲を受けたもの)

系 統	発芽状況 発芽数/播種数	形 質 及 び 本 数	牡丹出 率(%)
采 咲 系 A	33 / 37	鶏足柳葉細切咲2，掬水雨竜葉切咲牡丹2，掬水雨竜葉切咲2，渦尾長立田葉切咲1，渦立田葉切咲2，立田葉切咲牡丹2，立田葉切咲4，笹抱葉切咲2，笹葉切咲牡丹1，渦並葉丸咲2，並抱葉丸咲4，並葉牡丹3，並葉丸咲6	24
〃 B	61 / 73	糸柳葉細切咲1，渦柳葉撫子咲牡丹2，渦柳葉撫子咲8，立田柳葉切咲1，渦並葉牡丹12，渦並葉丸咲27，立田葉切咲1，並葉牡丹2，並葉丸咲7	26
〃 C	44 / 48	糸柳葉采咲牡丹2，糸柳葉采咲1，柳葉采咲牡丹2，柳葉采咲3，笹葉切咲2，蜻蛉葉牡丹7，蜻蛉葉丸咲24，並葉丸咲3	25
獅子咲系 A	38 / 42	握爪竜葉獅子咲牡丹2，握爪竜葉獅子咲1，並抱葉牡丹2，林風性並抱葉丸咲2，並抱葉丸咲26，並葉丸咲5	11
〃 B	47 / 49	握爪竜葉獅子咲牡丹1，握爪竜葉獅子咲7，並抱葉牡丹6，並抱葉丸咲19，丸抱葉牡丹3，丸抱葉丸咲9，並葉丸咲2	21